

広島県営水道ビジョンの概要

～ 持続可能な水道事業の実現に向けて ～

現状と課題

■ 沿革

- 昭和 37 年 広島湾沿岸部の重工業の用水を確保するため、**工業用水道事業**を着工
- 昭和 46 年 島しょ部の水不足、人口急増地域の水需要に対応するため県が水源開発を担う**水道用水供給事業**を着工
- 平成 21 年 福富ダムの完成 ⇒ 水源開発の終了

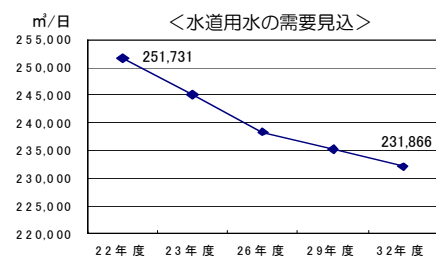
■ 環境の変化

- ・本格的な人口減少社会の到来
- ・1人当たり水使用量の減少、水の再利用の増加
- ・水の安全性、安定供給へのニーズの高まり
- ・環境保全への社会的要請

■ 経営課題

1 水需要減少に伴う収益減への対応

- ・水道用水供給事業 平成 32 年度水需要▲7.9% (22 年度計画給水量比)



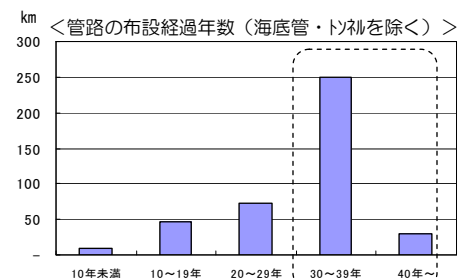
- ・工業用水道事業 水需要は減少傾向

2 技術力の継承と組織活力の維持

近年の採用抑制により若年層を中心に職員数が減少。企業局の設備職の職員は 50 代が 39.6% を占め、H30～33 年度にかけ大量退職が見込まれるため、技術力や組織活力の低下が懸念される。

3 老朽化施設の更新への対応

埋設後 30 年以上の管路（法定耐用年数は 40 年）が全延長（407 km）の 68.8%（280km）を占めるなど、多くの施設・設備が更新時期を迎える。今後 10 年間で 497 億円の更新費用（※）が見込まれる。



計画策定の趣旨・今後の経営方針

【計画策定の趣旨】

■ 策定趣旨

経営環境が厳しくなる中、引き続き安心・良質な水を安定供給するためには、長期的な視点で将来を見据えた経営を進める必要性

■ 計画の位置づけ

県営水道事業の長期的な事業運営の指針

■ 計画期間

10 年間/平成 23 (2011) 年度～平成 32 (2020) 年度

料金上昇を抑え、かつ独立採算を維持しながら、安心・良質な水を安定供給していくため、「**持続可能な水道**」を目指した経営を実施

【今後の経営方針】

■ 基本理念

「安心」で「良質」な水の「安定」供給を基本に、県民・企業から信頼される効率的で持続可能な事業運営に努め、県民福祉の向上と地域経済の発展・活性化に貢献します。

■ 基本理念実現に向けた 3 つの柱

1 経営基盤の強化

経営形態や事業運営手法の見直し、適切な資産管理、新規事業の展開などにより、費用の低減と収益の向上を図り、料金上昇の抑制につながる経営基盤の強化を図ります。

2 人材育成と組織活力の向上

これまで培ってきた技術・経験を継承できるよう計画的に人材を育成していきます。併せて、職員一人ひとりの意欲を生かし、組織の活力を高めていきます。

3 信頼性向上のための水道システムの充実

水の安全性、安定供給を充実・強化し、透明性のある事業運営を徹底することで、県民や企業から信頼が得られ続ける水道システムを目指します。

戦略目標

1 経営基盤の強化

◎ 重点目標

◎ 経営形態・事業運営の再構築

- 受水団体との一元化に向けた取組を推進
- 事業運営の効率化に向け、公民連携を推進

◎ 老朽化施設の計画的な更新

- 適切な維持管理による施設などの延命化、更新時期の平準化
- 水需要に応じた施設のダウンサイジング

◎ 収益向上に向けた取組

- 水ビジネスの実施に向けた取組
- 未売水の販売促進

2 人材育成と組織活力の向上

職員のスキルアップ

- 専門知識、技術を継承するため研修などの強化
- 職員が能力向上できる機会を提供

モチベーションの向上

- 職員の視野・知見を広げ、行動力を高めるための取組を推進
- 職員の経営参画意識の向上

3 信頼性向上のための水道システムの充実

安心・良質な水の安定供給

- 水質管理を充実し、安心、安全、良質な水を提供
- 送水ルートの強化、管路の耐震化を推進し、災害・事故時に強い水道を整備

地域貢献・情報公開の推進

- 環境対策を推進
- 海外からの水道技術研修の受入れなどの国際貢献
- 県民・ユーザーからの信頼が高まるよう情報公開を推進

基本理念（持続可能な水道事業）の実現

※平成 20 年度～29 年度：管路更新計画（第 1 次）142 億円
平成 23 年度～32 年度：水道施設リフレッシュ(10 カ年)計画 355 億円